

2) 日本消化器内視鏡技師会 看護委員会 内視鏡看護記録実践ガイド 2013年10月改定

【連絡先：〒839-0295 福岡県みやま市濃施480番地2 TEL：0944-22-5811】

4. 大腸内視鏡検査における鎮静剤使用に関する患者のニーズについての検討

社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院

看護師 ○名嘉真 功、宮城 律子、當山 正春、外間 貴子
古謝 香、新垣 沙織、徳元ひろみ、大城登代子
八木 博美、川満千恵美、前田 法子、大城 香海
大城智佐紀

【はじめに】

これまで当院では大腸内視鏡検査（以下CS）で鎮静剤を使用することは殆どなく、苦痛が特に強い患者や安静を保てない場合等に使用していた。しかし、当院は地域連携病院として他施設からの紹介も多く、最近では他施設でCSを受けた患者から「検査時に安定剤を使用できますか？」と質問されることが多くなってきた。

そこで今回、当院で鎮静剤を使用せずCSを受けた患者にアンケートを実施し、鎮静剤使用の必要性について検討を行った。

【方法】

期間：H28年12月1日～H29年2月28日

方法：CS終了直後に聞き取りによるアンケートを実施

対象：盲腸到達後に通常の観察・処置を目的としたCSを受けた428件

【倫理的配慮】

本研究の主旨及び個人情報には本研究以外の目的では使用しないことを説明し、同意を得てアンケートを実施した。

【結果】

検査のきつさに関しては『きつくなかった・少しきつかった』が86%で『きつかった・ひどくきつかった（もう受けたくない）』が13%だった。

次に検査を受ける時は、鎮静剤（少し眠くなり、緊張や苦痛を和らげる効果のある薬）を使いたいと思いますか？という質問には、『絶対使いたい』が4%、『使ってみたい』が

18%、『必要ない』が78%という結果だった。

【考察】

アンケート前は、鎮静剤使用を希望される患者が半数以上いると予想していたが、実際は22%に留まっていた。しかし『必要ない』と回答した中には、鎮静剤を使用した場合終日運転ができなくなるという制約がある為に希望されない患者もいたため、鎮静剤希望者は、実際には22%より多いと考える。

また鎮静剤使用を希望する理由として、検査がきつい・検査時間が長い等の身体的苦痛があげられるだろうと考えていたが、検査が『きつくなかった』と回答した人のうちの約10%、総検査・処置時間が30分以内で終了した人のうちの約15%が鎮静剤使用を希望しており、検査に対する不安などの精神的苦痛も鎮静剤希望の重要な理由であることが推測された。

今回の結果から身体的苦痛だけでなく、精神的苦痛に対してCS時に鎮静剤を使用したいと考えている患者がいることが推測された。鎮静剤使用を希望する患者は全体の22%と少数ではあるが、患者のニーズに応えることで全体の満足度をあげることができると考える。

【結論】

今後はCS検査時に希望者への鎮静剤使用を導入することで、患者の選択肢の幅を広げ、より満足度の高い医療を提供していきたい。

5. 緊急内視鏡検査時の急変に対応するための環境整備 —緊急時必要物品の作成—

独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院 内視鏡センター
内視鏡技師 ○畑中 澄子 岩坪ひろみ 福島 友美
看護師 宮崎あゆみ 近藤絵梨子

【はじめに】

A病院では夜間や休日に緊急内視鏡検査があるとき、消化器内科医師1～2名・内視鏡室看護師1名を呼び出す拘束体制をとっている。緊急内視鏡検査時は偶発症や急変に対応できるよう他部署から1～2名応援にきてもらうが、その時初めて内視鏡室に来る看護師もいる。これまでの経験から、救急カートの整備や急変対応能力を向上させるため年2回急変時シミュレーションを行うなど、内視鏡室としての急変への準備体制を作ってきた。しかし、休日緊急内視鏡検査時に急変した事例を経験した時、応援看護師への準備体制の